

2013 年 1 月 1 日

2013 年 年頭所感

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
新しい年を迎えるにあたり、昨年の振り返りと本年の取り組みについて述べさせていただきます。

◆ 2012 年、前半堅調も後半は苦戦

昨年の前半は、一昨年発生した震災や洪水による影響が解消されたことや、新車販売の増加、構造改革の効果が表れたことなどにより堅調に推移しました。しかしながら、後半はエコカー補助金終了による国内新車販売台数の減少や、日中関係悪化に伴う日系自動車メーカーの中国における車両生産・販売の大幅減少、さらにはカーナビゲーションシステムの国内量販店市場縮小など、足下で非常に厳しい状況が続きました。



代表取締役社長 重松 崇

◆ 成長軌道への布石 — 進化型安全システム開発、テレマティクスサービス強化、新興国・アセアン市場深耕

そのような中、将来の成長に資する布石も打ってまいりました。

2012 年 4 月 1 日付で、従来の事業本部を、AE／環境、AS／安心・安全、CI／快適・利便およびこれらのベースとなる SS／ソフト・サービスの 4 本部に再編し、「SS 技術本部」が牽引役となってビジネスモデルを描く仕組みに転換しました。

新設した「AS (Advanced Safety) 技術本部」では、駐車・走行時の様々な場面における安心・安全機能を一気通貫で担うことができる強みを生かし、「進化型安全システム」の開発に着手しております。

また、渋滞や規制、事故、走行状態、燃料残量など車内外の情報を通信によってリアルタイムで送受信する「テレマティクス」サービスでは、欧州とロシアで導入の義務化が進められている「eCall 緊急通報システム」や、スマートフォンにダウンロードしたナビを表示することができる「スマートフォン連携ディスプレイオーディオ」の開発などに取り組んでまいりました。この分野では、最先端技術の研究開発をより一層加速するため、米国・シリコンバレーに R&D センターを設置するなど体制作りも急いでおります。

さらに、拡大を続ける新興国市場においては、インドとインドネシアに現地法人を設立し、新たなビジネスに向けて活動を開始しました。

◆ 2013 年、Vehicle-ICT 事業を推進

富士通テンは 2012 年 10 月 25 日、お客様、お取引様、地域の方々に支えていただいたおかげで、創立 40 周年を迎えることができました。この場をお借りし、あらためて御礼と感謝を申し上げます。

2013 年は引き続き世界的に車両の販売増加が見込めるものの、当社を取り巻く環境は依然厳しいものと認識しております。しかしながら、創立 40 周年を機に策定した「VISION2022」で掲げている「Try Evolution for the Next ～新たな TEN へ～」に込めた想いを従業員一同共有し、「快適・利便」「安心・安全」「環境」の 3 分野において「Vehicle-ICT 事業」を推進し、この難局を乗り切っていきたいと考えております。

富士通テングループは、今後も、人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現を目指してまいります。

本件配布先	日時	方法
大阪機械記者クラブ・神戸経済記者クラブ・業界紙他	2013 年 1 月 1 日 (火) 00:00	資料配布・配信